

1. 芦田川下流ブロックの概要

1.1 ブロックの概要

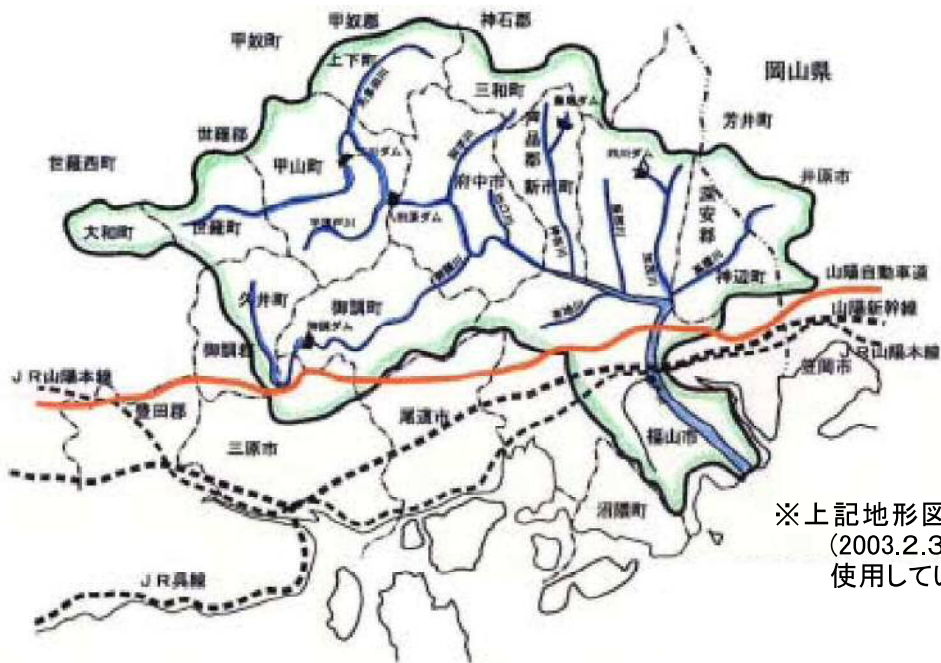
芦田川は、その源を広島県三原市大和町蔵宗(標高 570m)に発し、世羅台地を貫流して矢多田川、御調川の支川と合流し、府中市に至り、その下流で神谷川、有地川、高屋川等を合わせ、神辺平野を流下し、さらに瀬戸川を合わせて、福山市箕島町において瀬戸内海燧灘に注ぐ、全流域面積は860km²、幹線流路延長 86km の一級河川です。

芦田川流域のほとんどは広島県域内に位置しますが、下流域高屋川上流の一部は岡山県域に含まれ、流域市町は6市2町に達しています。

流域の地形は、上流域で甲山盆地を中心とする標高 200m～500m の台地からなり、下流域では、神辺・福山平野に代表される沖積平野が発達しています。概して芦田川は、山地河川となる上流側では屈曲が多く、平坦地を流れる下流部では穏やかな流れを見せています。

また、流域内には、三川ダム、御調ダム、藤尾ダムなどのダムが築造され、さらに平成9年7月には国土交通省所管の多目的ダム八田原ダムも竣工し、治水・利水面での貢献が期待されています。

芦田川下流ブロックは、芦田川の下流部に位置する福山市、府中市、神石郡神石高原町の広島県域2市1町にまたがる流域で、一級河川芦田川の御調川合流点下流に注ぐ支川流域から構成されています。



※上記地形図は新市町合併前(2003.2.3合併)の地形図を使用している。

図-1.1 芦田川流域概要図

(1) ブロックの自然環境

気候は、年間降水量の平均で 1,200～1,300mm 程度であり「瀬戸内海気候区」に属しています。瀬戸内沿岸部の近い福山に比べ、上流側の府中では1割程度年間降雨量が多く、季節的には、冬期に少なく梅雨期の5月から7月、台風期の9月に降雨量が集中する傾向があります。また、年平均気温は 14℃～16℃であり、下流の瀬戸内沿岸部に比べ上流側の府中では 0.8℃程度低い傾向にあります。

地形は、ブロックの北端部、西端部などブロックの外周には小起伏の山地が占め、そのうち山頂付近は吉備高原と呼ばれる標高 400～600m の平坦な台地状の地形が続いています。これら山地に囲まれる区域は標高 100m～200m の丘陵地、その内側の芦田川本川、高屋川沿いには神辺平野、下流側の福山市域では三角州低地が発達した福山平野が広がり、水田、市街地となっています。

地質は、北西部の吉備高原に属する山頂部は粘板岩質岩石、塩基性火山岩質岩石が分布していますが、この地質には、かつての鉱山跡が多く分布しています。山地部と平坦地との間の丘陵地は、瀬戸内沿岸部の山地・丘陵地に流紋岩質岩石が混在するのを除き、ほとんどが粗粒の広島花崗岩類から成っています。また、芦田川沿い、支川の平地部、神辺平野、福山平野などの平坦地では沖積層が広がります。

林相は、かつてはヤブツバキなどの天然林を形成してきましたが、現在では、ヤブツバキクラス域代償植生であるコバノミツバツツジーアカマツ群集が大半となっています。

(2) ブロックの社会環境

関係市町村における人口の変化をみると、福山都市圏として福山市は増加傾向にありますが、その他の周辺市町においては減少傾向にあります。これは福山市の周辺部から利便性の高い都市圏内の人口移動が進んでいることが原因と推測されます。

産業でみれば、流域の北端部の神石高原町は農林業を主体とする第一次産業が就業人口の3割を占めていますが、そのほかの市町村は第二次、三次産業が9割以上を占めており、特に製造業が盛んです。業種では、福山市では鉄鋼業、府中市の家具産業、福山市神辺町の機械・繊維、衣服工業が有名です。また、福山市新市町では衣服のほかにも菊も特産品となっています。

伝統芸能では、福山市新市町の素蓋鳴神社の「茅の輪くぐり」に代表される無病息災を願う伝統行事や、福山市に残る「二上り踊り」などが、地域の祭りとして伝承されています。

芦田川下流ブロックの歴史は古く、神辺平野では、旧石器時代から人々が活動していた痕跡が確認できます。とくに弥生時代には、亀山遺跡(福山市神辺町)や大宮遺跡(同)などにおいて、集落を複数の溝で囲んだ環濠集落と呼ばれる大規模な集落が成立するほか、古墳時代を通じて大規模な古墳が多く築造されており、神辺平野の農業生産力を背景に有力な政治的集団が形成されていく過程をうかがうことができます。

奈良時代から平安時代にかけては、現在の府中市に備後国府が設置されるとともに、神辺平野を東西方向に走る山陽道が建設され、備後地域の政治経済の中心地としての役割を担っていきます。また芦田川は、備後地域の内陸部と瀬戸内海とをつなぐ重要な交通路でもあり、その河口には内陸交通を海上交通へと結びつけるための港湾が成立していました。芦田川河口近くに位置する草戸

千軒町遺跡(福山市草戸町)は、鎌倉時代から室町時代にかけて存在した、そうした港湾の一つです。

関ヶ原の戦いによって現在の広島県域は福島正則が支配することになり、備後南部地域では神辺城(福山市神辺町)が支配拠点として整備されました。元和5年に水野氏へ備後南部地域の支配が移ると、芦田川河口域に新たに支配拠点となる城郭・福山城と城下町が建設されました。これが現在の福山市街地へと発展していくこととなります。

福山城下町は河口域に位置していたため、江戸時代には芦田川による水害にたびたび悩まされます。そのため流域各地でさまざまな治水対策が行われました。府中から蛇行していた芦田川の川筋を一直線にして中津原付近(福山市御幸町)で直角に南下させる河川改修が行われたほか、土砂災害対策として堂々川(福山市神辺町)などでは砂防堰堤が整備されました。また、農業用水の安定供給を目的とした服部大池(福山市駅家町)などのため池や、用水路の整備も進められました。

芦田川下流域では明治維新以降も水害が発生し、とくに大正8年の洪水は大規模なもので、これをきっかけに流路の変更や拡幅などを含む近代的な河川整備が実施されることになりました。

(3) 芦田川下流ブロック河川管理区間

芦田川下流ブロックの広島県河川管理区間を表-1.1示します。

表-1.1(1) 芦田川下流ブロック広島県管理区間一覧

河川名	指定区間		河川 延長 Km	流域 面積 km ²
	上流端	下流端		
せとがわ 瀬戸川	左岸 福山市瀬戸町大字長和字石田端 3384 番地先 右岸 福山市瀬戸町大字長和字石田端 3392 番地先	芦田川への合流点	6.4	52.9
ふくがわ 福川	福山市郷分町字境 1446 番地先の市道橋	瀬戸川への合流点	4.5	7.9
おだがわ 小田川	左岸 福山市山手町字俄谷 1984 番地先 右岸 福山市山手町字俄谷 1994 番地先	瀬戸川への合流点	2.8	6.3
いのこがわ 猪之子川	左岸 福山市瀬戸町大字長和字田平 2147 番 1 地先 右岸 福山市瀬戸町大字長和字田平 1990 番 1 地先	瀬戸川への合流点	2.9	2.2
かやがわ 加屋川	左岸 福山市津之郷町大字加屋字青木 138 番 1 地先 右岸 福山市津之郷町大字加屋字川添 128 番 4 地先	瀬戸川への合流点	1.3	6.9
こうでがわ 河手川	左岸 福山市赤坂町大字赤坂字正田 544 番地先 右岸 福山市赤坂町大字赤坂字田之迫 544 番地先	瀬戸川への合流点	5.7	9.8
ろんでんがわ 論田川	左岸 福山市熊野町字段原甲 1451 番 1 地先 右岸 福山市熊野町字茶黒甲 957 番 2 地先	瀬戸川への合流点	5.3	16.6
たかやがわ 高屋川	左岸 岡山県井原市高屋町字落石 7419 番 2 地先 右岸 岡山県井原市高屋町字落石 7693 番 2 地先	直轄区間上流端	13.7	142.3
よしのがわ 吉野川	左岸 福山市駅家町大字法成寺字池跡 2758 番地先 右岸 福山市駅家町大字法成寺字四日市 1374 番地先	高屋川への合流点	5.6	10.2
にしかわ 西川	左岸 福山市駅家町大字法成寺 577 番地先 右岸 福山市駅家町大字法成寺 626 番地先	吉野川への合流点	1.1	2.4
しんかわ 新川	福山市神辺町大字川南 3 の丁 413 番 1 地先の町道橋下流端	高屋川への合流点	1.4	6.8
かまがわ 加茂川	左岸 福山市加茂町大字栗根字小川 884 番 2 地先 右岸 福山市加茂町大字栗根字土井 283 番 1 地先	高屋川への合流点	8.1	32.7
ももたにがわ 百谷川	左岸 福山市加茂町大字百谷字宮ノ上甲 512 番地先 右岸 福山市加茂町大字百谷字城福乙 134 番地先	加茂川への合流点	2.9	5.3
しかわ 四川	左岸 福山市加茂町大字北山 3056 番 3 地先 右岸 福山市加茂町大字北山 3001 番 1 地先	加茂川への合流点	3.8	10.0
たにりがわ 谷尻川	左岸 福山市加茂町大字北山 3052 番 9 地先 右岸 福山市加茂町大字北山 3056 番 6 地先	四川への合流点	0.3	3.4
ろくたんだがわ 六反田川	左岸 福山市神辺町大字道上字渡瀬 1439 番 4 地先 右岸 福山市神辺町大字道上字渡瀬 1476 番 5 地先	高屋川への合流点	3.7	6.0
ろっけんがわ 六軒川	左岸 福山市神辺町字十九軒屋小字三の丁 267 番地先 右岸 福山市神辺町字十九軒屋小字道上一の丁 42 番地先	六反田川への合流点	0.7	4.5
ほこたがわ 箱田川	左岸 福山市神辺町大字東中条字向山 452 番地先 右岸 福山市神辺町大字東中条字梶久 1591 番地先	高屋川への合流点	5.5	9.0
こんのぶがわ 今信川	左岸 福山市神辺町大字東中条字池の坊 1175 番地先 右岸 福山市神辺町大字東中条字輔田 498 番地先	箱田川への合流点	1.2	3.4
なかにがわ 中溝川	福山市神辺町大字平野字古市 53 番地先の町道橋下流端	高屋川への合流点	0.1	0.5
てんのうまきがわ 天王前川	福山市神辺町大字平野字舁田 673 番 2 地先の町道橋	高屋川への合流点	0.8	0.8
ふかみずがわ 深水川	左岸 福山市神辺町大字西中条字深水 1760 番地先 右岸 福山市神辺町大字西中条字深水 1850 番 1 地先	高屋川への合流点	2.9	3.2
かいたにがわ 貝谷川	左岸 福山市神辺町大字西中条字貝谷 263 番地先 右岸 福山市神辺町大字西中条字貝谷 256 番 10 地先	深水川への合流点	0.6	1.1

表-1.1(2) 芦田川下流ブロック広島県管理区間一覧

河川名	指定区間		河川 延長 Km	流域 面積 km ²
	上流端	下流端		
どうどろがわ 堂々川	左岸 福山市神辺町大字下御領字米道甲 82 番 1 地先 右岸 福山市神辺町大字湯野字迫山 3 番 1 地先	高屋川への合流点	1.5	2.7
なげだろがわ 竹田川	左岸 福山市神辺町大字上竹田字若林 695 番 1 地先 右岸 福山市神辺町大字上竹田字境前 696 番地先	高屋川への合流点	4.7	21.3
ほさまがわ 狭間川	左岸 福山市神辺町大字竹田字小角 1394 番地先 右岸 福山市神辺町大字竹田字郷戸 522 番地先	竹田川への合流点	2.0	6.1
しみずがわ 清水川	左岸 福山市神辺町大字上御領字奈良原 300 番 1 地先 右岸 福山市神辺町大字上御領字今平 3012 番地先	高屋川への合流点	2.5	2.6
ほつとりがわ 服部川	左岸 福山市駅家町大字服部本郷字雨引 353 番 2 地先 右岸 福山市駅家町大字服部本郷字段原 947 番 2 地先	芦田川への合流点	7.9	26.9
おやまだがわ 小山田川	左岸 福山市駅家町大字新山 1262 番 2 地先 右岸 福山市駅家町大字新山 3002 番地先	服部川への合流点	3.3	3.6
ほんながたにがわ 本永谷川	左岸 福山市駅家町大字服部永谷字砂池ノ上乙 617 番地先 右岸 福山市駅家町大字服部永谷字カクイ峠 621 番 1 地先	服部川への合流点	1.5	2.3
にしきたろがわ 西谷川	左岸 福山市駅家町大字今岡字俄 669 番地先 右岸 福山市駅家町大字今岡字俄 578 番地先	芦田川への合流点	2.4	5.0
いまいがわ 今岡川	左岸 福山市駅家町大字今岡字末谷 307 番地先 右岸 福山市駅家町大字今岡字末谷 98 番 1 地先	西谷川への合流点	1.1	1.3
あるじがわ 有地川	左岸 福山市芦田町大字柞磨字三反田 749 番 1 地先 右岸 福山市芦田町大字柞磨字大坪 838 番 1 地先	芦田川への合流点	9.0	29.6
さいまちがわ 才町川	左岸 福山市芦田町大字福田 206 番地先 右岸 福山市芦田町大字福田 207 番地先	有地川への合流点	2.0	0.6
むかひながたにがわ 向永谷川	左岸 福山市駅家町大字向永谷字本谷川西 1180 番地先 右岸 福山市駅家町大字向永谷字本谷川西 1016 番地先	有地川への合流点	2.0	4.0
いちはらわ 市原川	左岸 福山市芦田町大字福田字棧敷 554 番地先 右岸 福山市芦田町大字福田字是来 1812 番 1 地先	有地川への合流点	1.7	1.9
くだたにがわ 久田谷川	左岸 福山市芦田町大字下有地 1807 番 5 地先 右岸 福山市芦田町大字下有地 1821 番地先	有地川への合流点	2.1	4.3
ほりまちがわ 堀町川	左岸 福山市芦田町大字上有地字西大谷 2536 番地先 右岸 福山市芦田町大字上有地字天満筋 1058 番地先	有地川への合流点	1.7	5.9
とでがわ 戸手川	左岸 福山市新市町大字戸手字細口 1450 番地先 右岸 福山市新市町大字戸手字細口 1409 番地先	芦田川への合流点	1.3	5.1
かやがわ 神谷川	左岸 神石郡神石高原町大字父木野 2218 番地先 右岸 神石郡神石高原町大字父木野 2278 番 1 地先	芦田川への合流点	21.9	74.1
きくまろがわ 木曾丸川	左岸 福山市新市町大字宮内字上砂入 1270 番 3 地先 右岸 福山市新市町大字宮内字上砂入 243 番地先	神谷川への合流点	1.4	1.1
かんながわ 金名川	左岸 福山市新市町大字常字垣平 2478 番地先 右岸 福山市新市町大字常字垣平 2477 番地先	神谷川への合流点	3.0	3.3
みたにがわ 見谷川	左岸 福山市新市町大字金丸字市場 1852 番地先 右岸 福山市新市町大字金丸字花屋 1299 番地先	神谷川への合流点	0.7	9.2
ちちおがわ 父尾川	左岸 福山市新市町大字藤尾 3939 番地先 右岸 福山市新市町大字藤尾 3938 番 3 地先	神谷川への合流点	5.4	17.9
ふじおがわ 藤尾川	左岸 神石郡神石高原町大字父木野字江立明見川東2144番地先 右岸 神石郡神石高原町大字父木野字江立田田ノ尻2258番地先	神谷川への合流点	4.0	10.0
すながわ 砂川	左岸 府中市元町字鱒免 45 番地先 右岸 府中市元町字片岡 687 番 2 地先	芦田川への合流点	3.7	12.8
でくちがわ 出口川	左岸 府中市荒谷町字別両路 2 番 2 地先 右岸 府中市出口町字赤岩の上ミ 581 番の甲 1 地先	芦田川への合流点	2.4	11.9

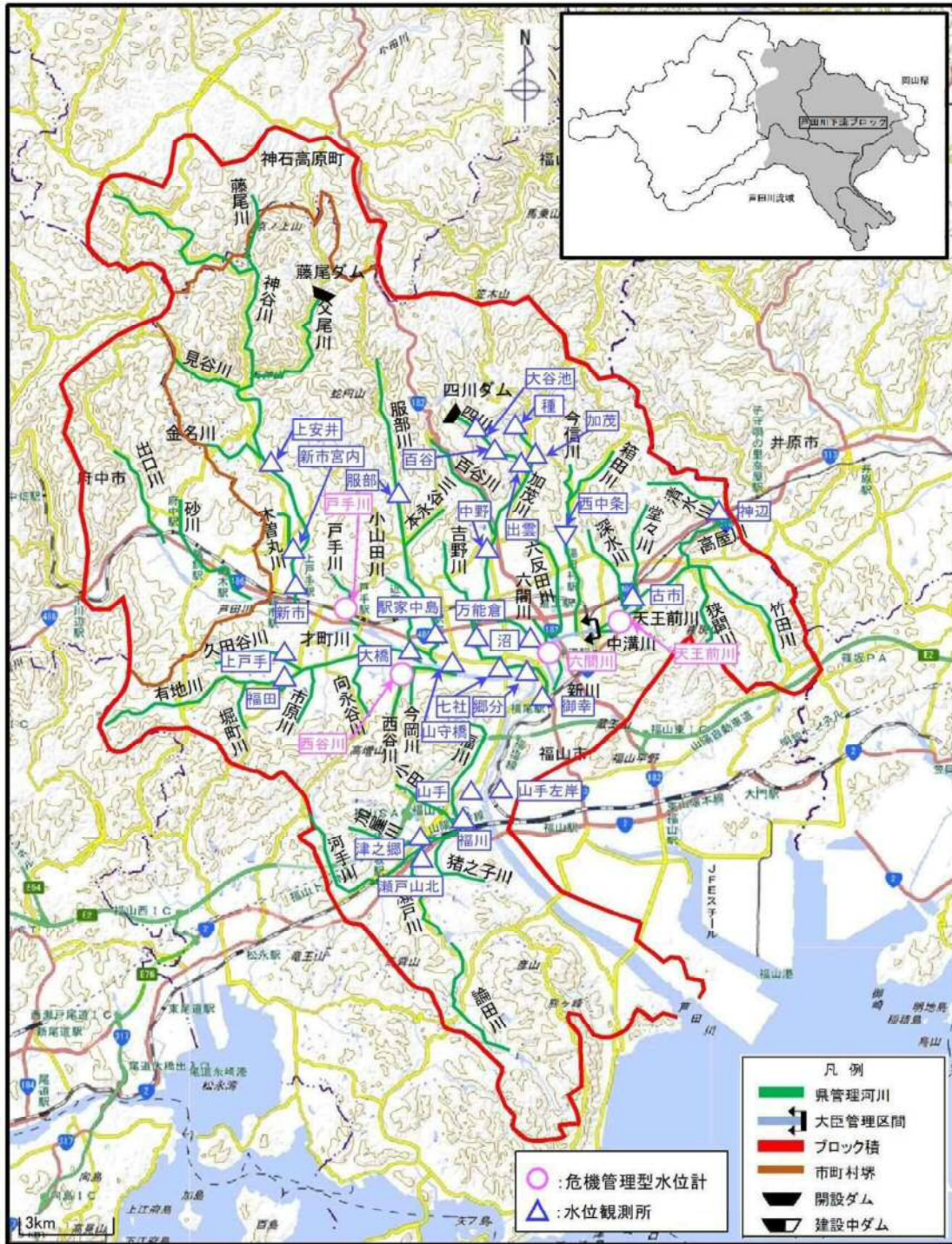


図-1.2 芦田川下流ブロック対象河川

1.2 現状と課題

1.2.1 治水に関する現状と課題

芦田川の大きな災害としては、古くは大正 8 年 7 月、昭和 20 年 9 月の枕崎台風、近年では昭和 51 年 9 月、昭和 60 年 6 月、平成 10 年 10 月、平成 30 年 7 月洪水が著名です。とくに、^{あな}穴の海と呼ばれ古代は湿地だった神辺平野は低平な河川が多く、昭和 51 年 9 月洪水では高屋川の水位の上昇に伴い、高屋川へ流入する河川を中心に内水浸水を引き起こし、福山市神辺町、福山市^{えきや}駅家地区を中心に広い範囲で家屋が浸水しました。その後、高屋川の改修により高屋川の洪水位が低下したことと、内水ポンプの設置等の対策によって、それらの内水浸水被害は軽減されています。その他、各河川において、河川改修が進められてきましたが、昭和 60 年 6 月、平成 10 年 10 月あるいは平成 30 年 7 月洪水等において、芦田川下流ブロック内では依然として家屋の浸水が生じている河川が残されており、これらの流域に対する安全な川づくりが地域住民からも望まれています。

芦田川下流部における主な洪水と被害概況を表-1.2 に示します。

表-1.2 芦田川下流ブロックの主要な洪水

	発生日	発原因	24時間雨量	被災市町村	被害状況	備考
著名過去の洪水	大正8年7月	梅雨前線		福山市, 府中市等	死者23名 全半壊家屋416棟 浸水家屋6,238棟	被害は広島県合計
	昭和20年9月	枕崎台風		福山市, 府中市等	死者85名 全半壊家屋206棟 浸水家屋2,714棟	被害は広島県合計
近年の洪水	昭和42年7月	豪雨		福山市	床上浸水74棟 床下浸水439棟 宅地・その他浸水51ha 農地浸水488ha	有地川, 高屋川, 瀬戸川等
	昭和47年6月	台風		福山市, 新市町	床上浸水10棟 床下浸水23棟 宅地・その他浸水8.2ha 農地浸水92.9ha	高屋川, 神谷川等
	昭和47年9月	台風		福山市	床上浸水4棟 床下浸水55棟 宅地・その他浸水0.7ha 農地浸水0.3ha	高屋川
	昭和50年8月	台風	155.0	福山市	床上浸水11棟 宅地浸水2.2ha	瀬戸川, 有地川等
	昭和50年9月	前線	78.0	福山市, 神辺町	床上浸水1棟 床下浸水21棟 宅地浸水3.6ha	瀬戸川, 吉野川等
	昭和51年9月	台風	155.5	福山市, 神辺町, 府中市	半壊1棟 床上浸水13棟 床下浸水413棟 宅地浸水114.4ha 農地浸水285ha	新川, 吉野川等
	昭和54年6月	梅雨前線	119.0	福山市, 神辺町, 府中市	床下浸水6棟 宅地浸水0.4ha	新川, 吉野川等
	昭和56年6月	梅雨前線	111.0	神辺町	床下浸水24棟 宅地浸水0.7ha	新川
	昭和60年6月	梅雨前線	124.0	福山市	床上浸水6棟 床下浸水140棟 宅地浸水3.4ha 農地浸水50.7ha	加茂川, 瀬戸川, 有地川等
	平成10年10月	台風	142.0	福山市, 神辺町	床上浸水3棟 床下浸水14棟 宅地浸水0.5ha	瀬戸川, 有地川等
	平成28年6月	梅雨前線	111.0	福山市	床上浸水9棟 床下浸水33棟	瀬戸川等
	平成30年7月	梅雨前線	231.0	福山市, 府中市	床上浸水1,227棟 床下浸水864棟 宅地浸水1,735ha	新川, 吉野川, 瀬戸川等

出典) 過去の著名洪水は国土交通省福山河川国道事務所資料を使用した。

近年の主要洪水は、複数の河川で洪水被害を生じた洪水を選定し、昭和42年,昭和47年については水害統計、昭和50年以降については、河川浸水被害履歴調査(平成12年実施)を使用した。

24時間雨量は福山気象台観測値を示す。

※新市町は、平成15年2月3日に福山市と合併。

※神辺町は、平成18年3月1日に福山市と合併。

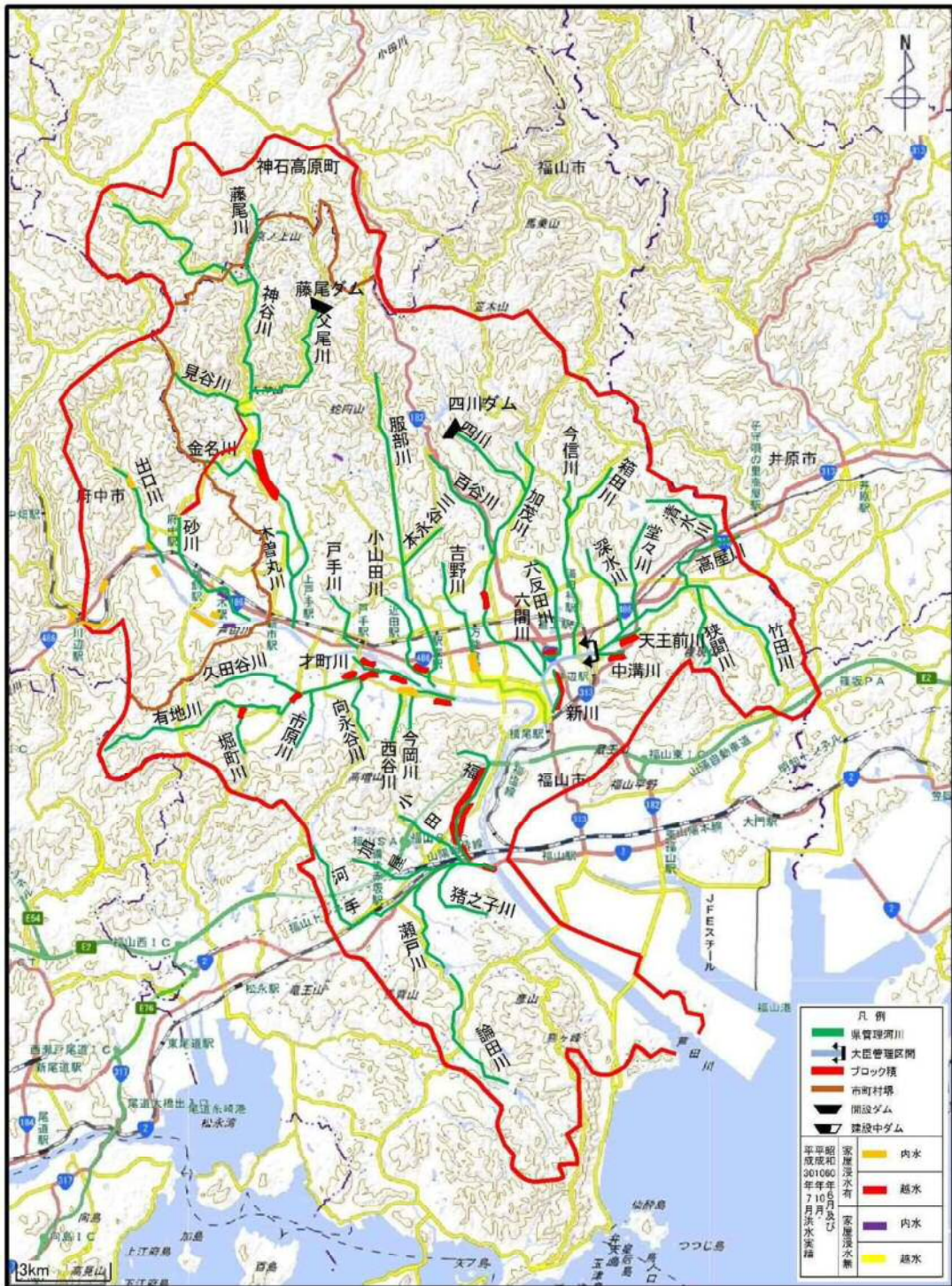


図-1.3 過去の浸水区域図

1.2.2 利水に関する現状と課題

芦田川下流ブロックの流水は、国土交通省直轄管理区間を除いて、主にかんがい用水として利用されており、411件の取水施設で約4,660haの農耕地をかんがいでいます。そのほかに、発電用水や、小規模な上水道、雑用水として取水されています。

芦田川流域は、同じ瀬戸内海気候区に属する他河川と比べ、年間降水量が少ないうえに、本川下流では水利用が高度に進んでいます。このため、たびたび渇水にみまわれ、昭和48年をはじめとして昭和53年、平成6年、平成7年、平成8年には、国土交通省直轄管理区間の水利権を対象として大規模な取水制限等の渇水調整が行われました。特に、平成6年は、5月以降、梅雨期の雨もほとんどなく、平年を大きく下回る異常小雨のため起こったものであり、その後の秋雨前線活動も弱く、また、台風接近による雨も極端に少なかったことから、越年渇水となりました。この渇水による被害は、多くの産業にわたって発生し、日常生活においても節水や断水により、多大な労力が払われ、福山市では、市制施行以来はじめて45日間にも及ぶ12時間断水が実施され、約12万3500世帯が影響を受けました。

支川については、平成6年の異常渇水時は各河川の流量は例年に比べて少なくなったものの、地下水源の上水道(福山市神辺町)や一部の農業に影響があったのみで、地域住民の生活や動植物の生息・生育環境に大きな影響を与える事態には至りませんでした。しかし、かんがい期に瀬切れが生じる河川が多くあり、流水の正常な機能を維持するための水量の確保が課題となっています。

芦田川下流ブロックの主要な地点について、平成20年から平成29年まで10ヵ年平均の流況を表-1.3に示します。

表-1.3 芦田川下流域流況

地 点	流域面積 (km ²)	豊水流量 (m ³ /s)	平水流量 (m ³ /s)	低水流量 (m ³ /s)	渇水流量 (m ³ /s)	
芦田川	府 中	488.9	10.650	7.465	6.097	4.525
	郷 分	648.4	7.063	3.071	1.884	0.938
	山 手	817.1	9.008	4.320	2.952	1.529
高屋川	御 幸	146.0	1.994	0.900	0.507	0.269
神谷川	新 市	60.0	1.393	0.713	0.453	0.201
四 川	四川ダム	9.0	0.162	0.076	0.045	0.020
瀬戸川	西神島	50.5	0.674	0.425	0.289	0.163

(備考) 豊水:1年のうち、95日これらを下らない流量。
 平水:1年のうち、185日これらを下らない流量。
 低水:1年のうち、275日これらを下らない流量。
 渇水:1年のうち、355日これらを下らない流量。
 平成17年に四川ダムが完成したため、四川ダムの流量を記載。

1.2.3 河川環境に関する現状と課題

芦田川下流ブロックには、多種多様な動植物の生息・生育環境が整っており、人々の住空間に隣接し身近にふれあい利用できる自然環境や、藤尾溪谷に代表される山間河川で自然豊かな河川環境が形成されています。この多様な河川環境を維持・継続するとともに、人と川とがふれあうことのできる川づくりを進めていく必要があります。

以下に、芦田川下流ブロックの河川環境の現状について示します。

(1)水質

芦田川の水質環境基準は、芦田川本川は瀬戸川合流点下流がB類型(BOD75%値が3mg/l以下)、上流側がA類型(BOD75%値が2mg/l以下)に指定されています。また、支川では高屋川下流がB類型(BOD75%値が3mg/l以下)、上流がA類型(BOD75%値が2mg/l以下)、瀬戸川下流がB類型(BOD75%値が3mg/l以下)に指定されています。

かつて、芦田川は中国地方の一級河川で最も水質が悪化している河川とされており、特に支川高屋川は中国地方の一級河川において最悪の水質となっておりました。現在、芦田川水系においては水質改善傾向が見られ、神谷川、有地川についてはA類型に保たれております。本川下流部の小水呑橋、山手橋において、支川では高屋川および吉野川、瀬戸川においては、わずかに環境基準値を越えている状況です。

流域における水質保全の取り組みとして、現在、河川の浄化、下水道等生活排水処理施設などの整備が行なわれており、水質流域全体的に改善されていると言えます。

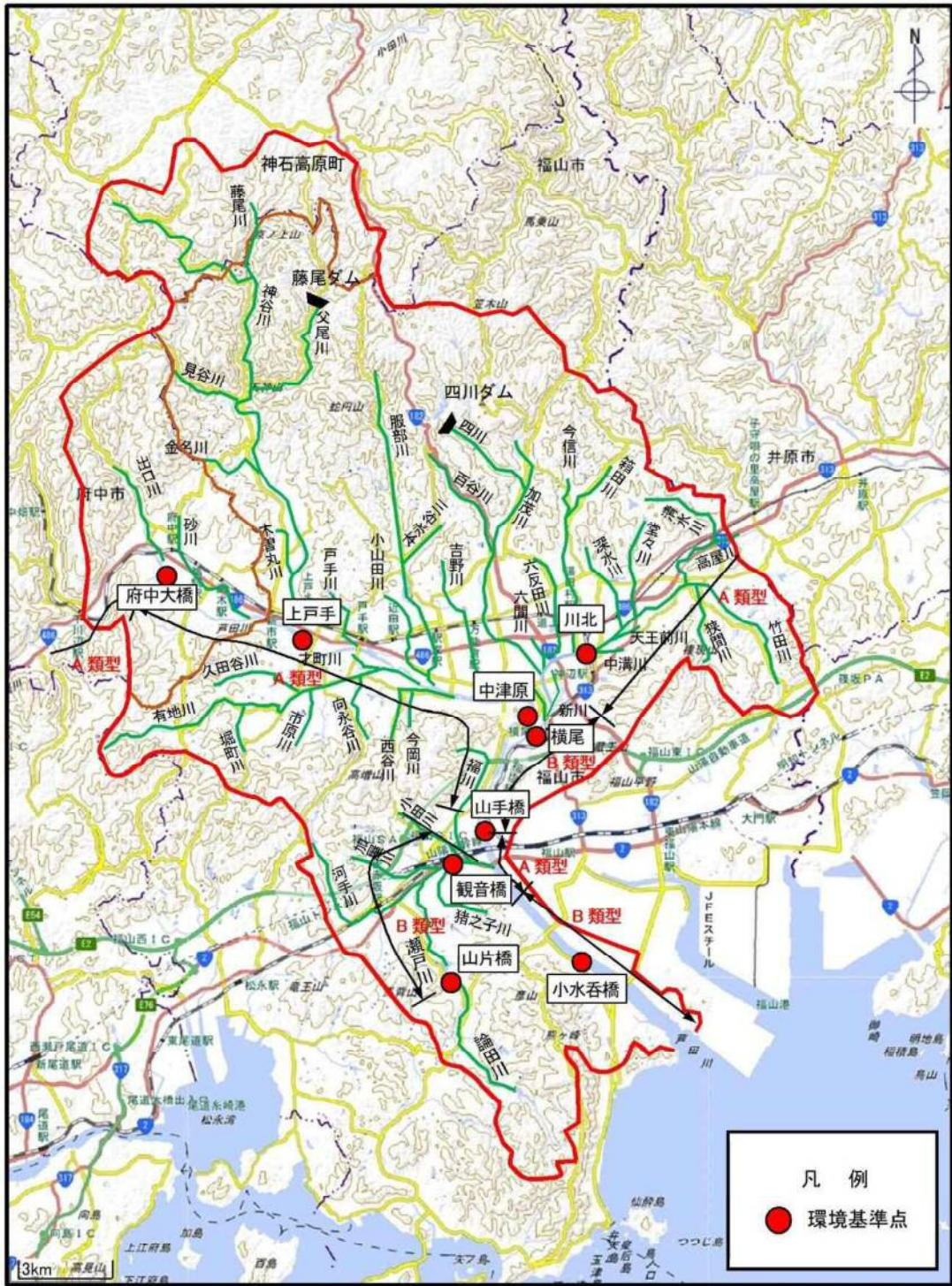


図-1.4(1) 芦田川下流域水質観測点位置図

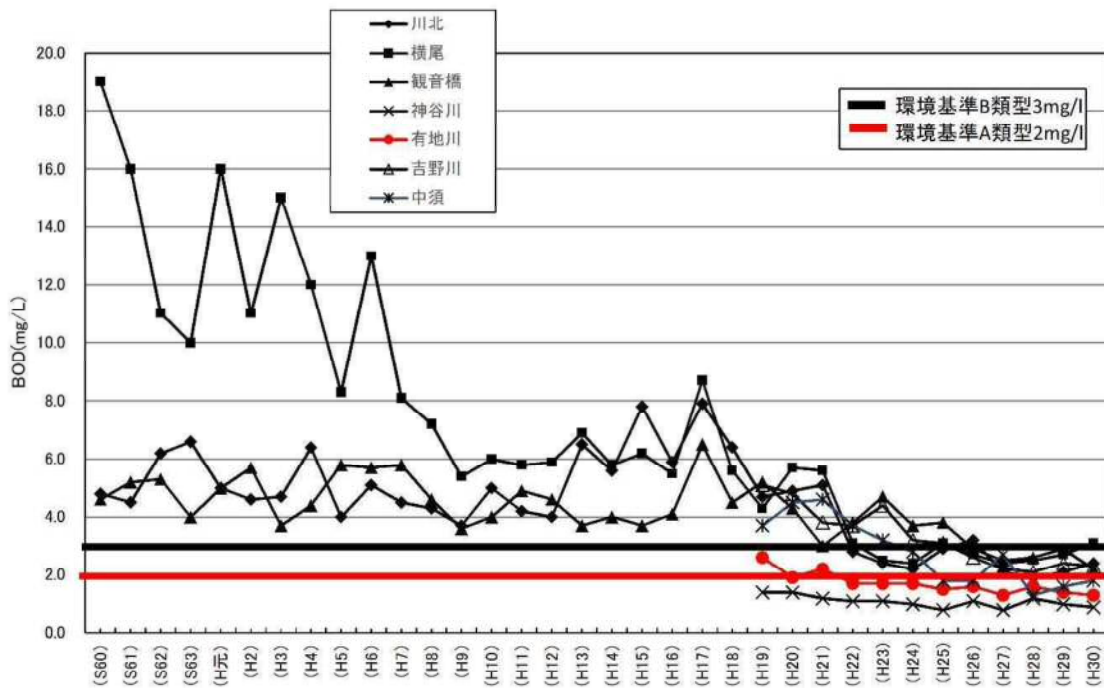
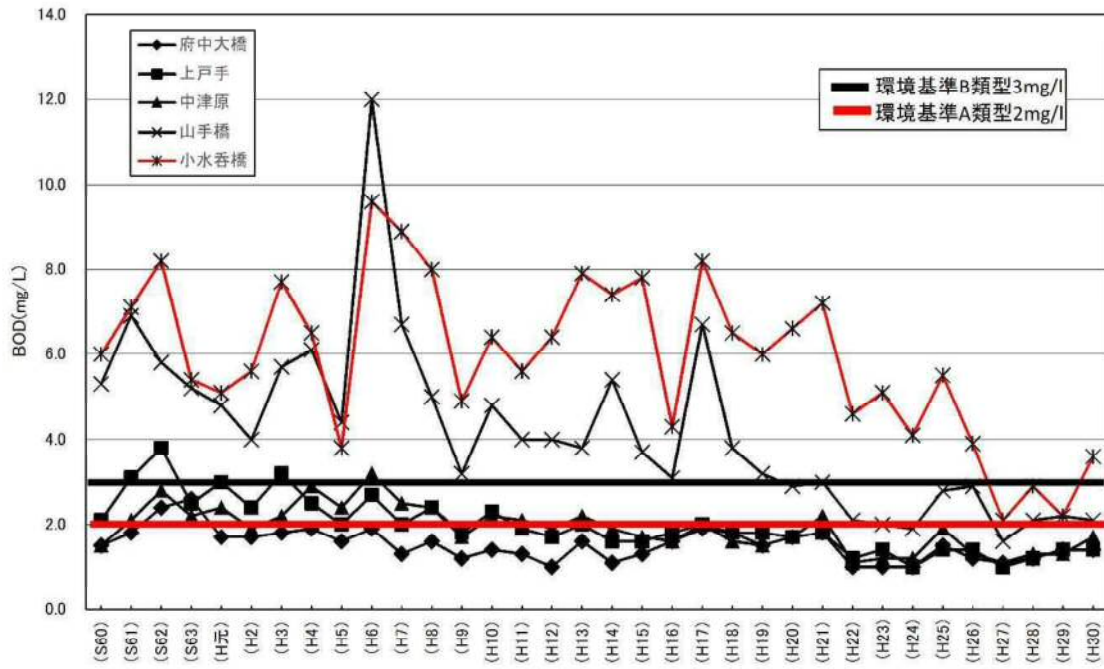


図-1.4(3) 芦田川下流域支川の水質(BOD75%値)

出典:公共用水域等の水質測定結果報告書(広島県)

(2)動植物

神谷川上流などのブロック北部は芦田川下流ブロックでは少ない山地地形が残っており、藤尾溪に代表される四季折々の色合いを呈する溪谷美に富んだ清流となっています。そのため、アマゴ、アカザ、ハグロトンボ、ゲンジボタル、カワセミなど水のきれいな清流を好む生物が生息する良好な環境を有しています。ゲンジボタルは服部川上流や高屋川支流の竹田川でも見られるほか、狭間川の瀬戸池放水口～竹田川合流点においては、県指定天然記念物として保護されています。

一方、芦田川下流ブロック内の河川は北部の山地部を除いては、ほとんどが平坦な地形を流れ、田園あるいは住宅地の排水路として整備された河川も多く、一般的に見られるオイカワ・ヨシノボリ類の他に貴重魚種としては、よどんだ水域をすみかとするスジシマドジョウ、タモロコ、ヤリタナゴが広い範囲で生息しています。また、オヤニラミはブロックの南部の論田川、東部の箱田川の最上流に、スイゲンゼニタナゴは高屋川下流域及び福山市街の用水路で確認されています。

河川にかかわる植物では、低平な河川が多いことからタコノアシ、ミクリ、セイコノヨシなどの湿地性の貴重な植物が下流側の芦田川本川、瀬戸川などに多く存在しています。

は虫類・両生類ではダルマガエル、カスミサンショウウオが下流域に分布しています。

昆虫では、1980年に府中市で紫の羽を持つ美しい国蝶オオムラサキが見つけれられて以来、「オオムラサキを守る会」がつくられ、幼虫のエサとなるエノキの植樹や保護ネットの設置、生息調査など地道な保護活動を続けています。

鳥類においては、芦田川本川ではヒドリガモ、カワセミ、カワウが広い範囲で確認され、とくに河口部はカンムリカイツブリ、カワウ、チュウサギ、アマサギ、オオバンなど多種の鳥類が見られ、バードウォッチングのメッカとなっています。また、「芦田川」の名が示すとおり、芦田川の下流部の山手大橋付近にはセイコノヨシが繁茂し、鳥類の営巣地を提供しています。

このように、山間部の自然が残されている河川については豊かな自然環境を後世へ残すとともに、低平な地域を流れる河川については、河川の浄化、下水道等生活排水処理施設の整備などにより水質の改善が見られるが、引き続き豊かな自然を再現する努力を行っていく必要があると考えられます。

(3)河川空間及び利用状況

芦田川下流ブロックの本川下流部の河口湖では、広い水面を利用した水上スポーツや花火大会に、日常では豊富な鳥類を対象としたバードウォッチングに利用されています。また、高屋川の支流竹田川、服部川の上流部ではゲンジボタルの発生地として知られており、都市近郊で自然が残される貴重な場となっています。特に服部川では、地域住民によりホタル祭りが行われています。

また、出口川下流部の河川公園に見られる河川整備等では、河川敷が貴重なオープンスペースとして利用されているほか、その他多くの河川で日常的な散歩、散策路、子供たちの川遊びの場としての利用がなされています。

このような現況の河川状況を極力残すとともに、人々がふれあうことのできる自然環境として、また快適なレクリエーションの場として、河川利用を考慮した河川整備が必要と考えられます。